

報道関係各位

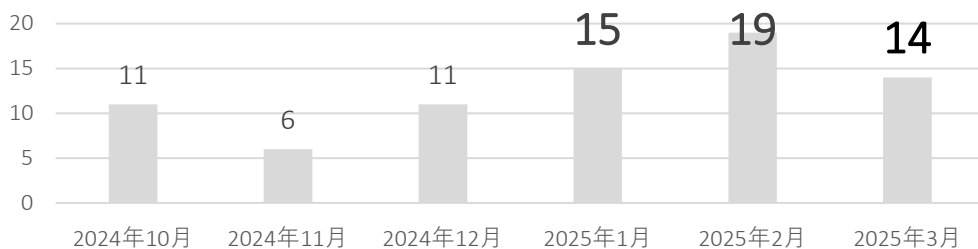
2025 年 4 月 28 日
AUTHENTIC JAPAN 株式会社

「ココヘリ」ユーザー シーズンレポート 2024 年 10 月～2025 年 3 月 冬山 1～3 月は案件が急増 50・60 代が 6 割、通報の 4 割は“下山連絡遅れ”

山や海での行方不明者の位置を特定する検索サービス「ココヘリ」を運営する AUTHENTIC JAPAN 株式会社（本社：福岡市中央区、代表取締役社長：久我 一総）は、2024 年 10 月から 2025 年 3 月（6 か月間）の通報 76 件を集計し、シーズンレポートとして取りまとめました。

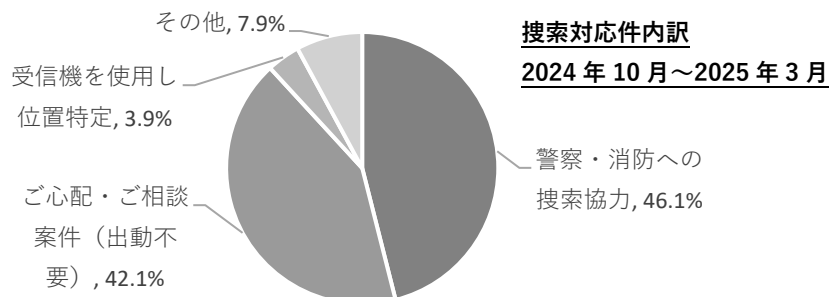
概要

6 か月間のココヘリ検索対応件数は、76 件でした。月別の件数では、最多は 2 月の 19 件。1 月～3 月の増加傾向が顕著となりました。



内訳は、最多が「警察・消防への検索協力」で約 46%。次いで、下山連絡遅れや連絡不通による「ご心配案件」が約 42%でした。この結果から、登山計画や下山予定時刻を事前に家族・友人に共有することの重要性が改めて浮き彫りになりました。

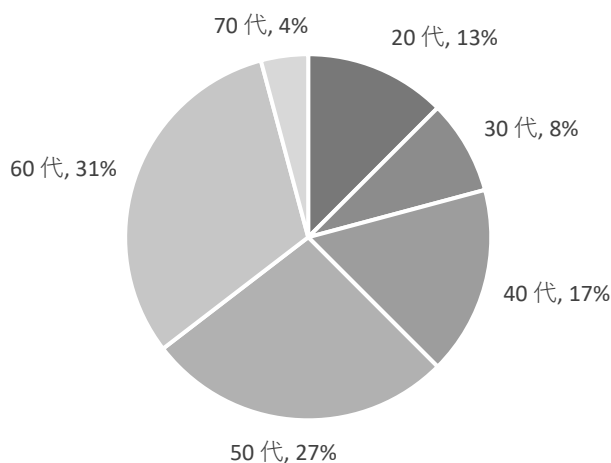
「ご心配案件」の背景には、連絡手段の喪失が関係しているケースが多く見られます。スマートフォンが圏外になるエリアに加え、バッテリー切れや故障といったトラブルによって連絡が取れなくなり、結果的に心配されて通報に至るケースも少なくありません。こうした事態への備えとしては、ココヘリのような位置特定発信機の携行が有効です。



■
検索対象者の年代を見ると、50代が27%、60代が31%を占め、この2つの年代だけで全体の58%にのびります（※年代判明48件を対象に集計）。

この年代層では、体調の急変や既往症の悪化によって行動不能に陥るケースが目立ちます。特に春から夏にかけては、高温下での心疾患や脱水症状のリスクも加わるため、より厳格な体調管理と早めの撤退判断が求められます。

検索対象者の年代 2024年10月～2025年3月



通報者

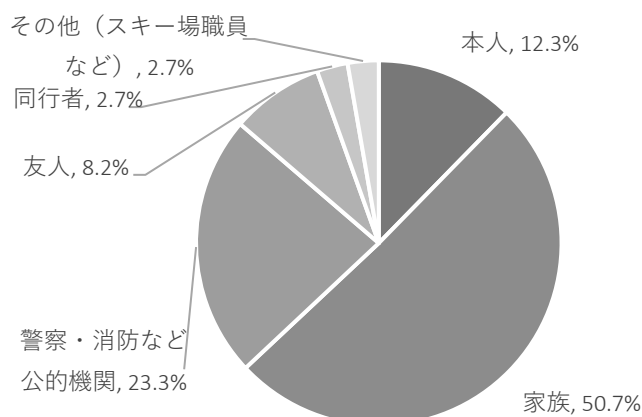
通報を実施した人の内訳は、「本人」が12%、配偶者や親・友人など「本人以外」が88%という結果でした。

内容を詳しく見ると、「本人」からの通報のすべてが行動不能などのトラブル発生後のケースでした。一方、「本人以外」からの通報は、下山予定時刻を過ぎても連絡が取れないことや、所在地不明による不安感がきっかけとなっており、その割合は約85%です。

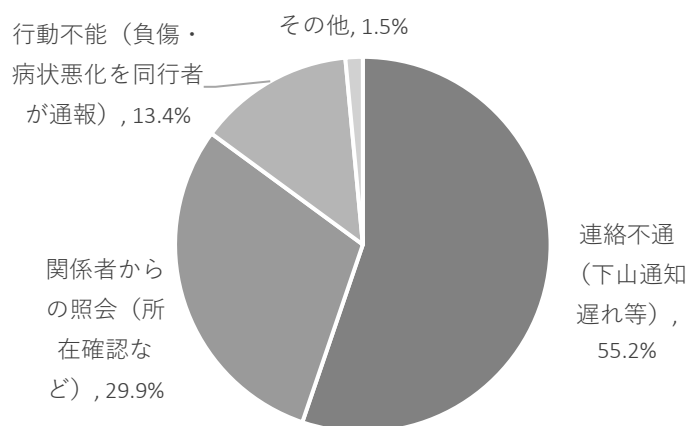
こうした事態を防ぐためにも、登山者はあらかじめ下山予定時刻や行程を家族・友人と共有することが重要です。

特に、携帯電話の圏外となる山域では、事前の情報共有が通報の回避にもつながります。

通報者内訳 2024年10月～2025年3月



本人以外の通報内訳 2024年10月～2025年3月



■ 検索対象者の居住地と、捜索事案の発生地

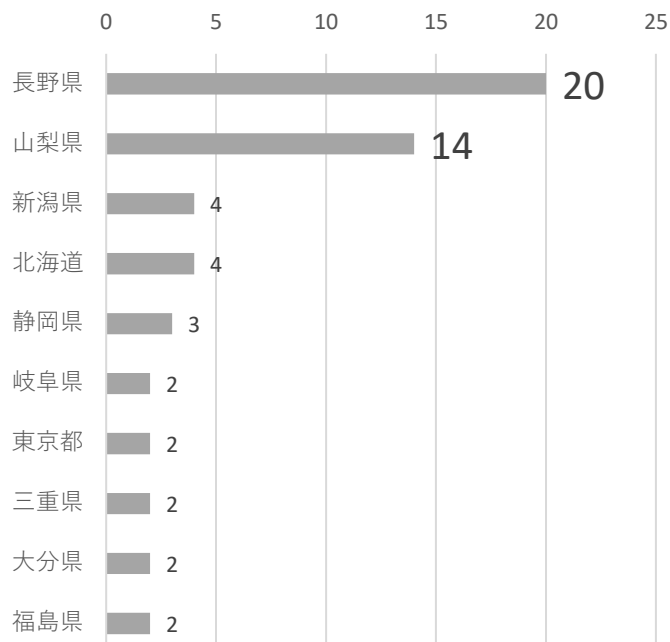
2024 年 10 月～2025 年 3 月の期間中では、遭難された方の多くは都市部に在住し、一方で捜索事案の発生地は長野や山梨などの山岳県に集中しています（※以下、2 件以上の発生があった都道府県を対象に集計）。

登山者自身による“他県へ行く”という意識の切り替えと、十分な備えがより重要になります。

検索対象者 居住地 2024 年 10 月～2025 年 3 月



通報事案 発生地 2024 年 10 月～2025 年 3 月



2024 年 10 月～2025 年 3 月の通報を振り返って、登山者へのアドバイス

最近の遭難の傾向を見ますと、岩場や雪山等での致命的な事故よりも、体調不良や下山連絡の不備等による事例が、件数的には増加しています。例えば、想定した計画よりも大幅に下山遅れしてしまい、留守宅や山仲間に余計な心配をかけてしまうなどの例です。そのためにはゆとりあるプランを立てることや、もし数日間に及ぶ計画でしたら「予備日」を設けるなどが必要です。登山者がトレイルランナーの方々の記録等を参考にしまい、とてもそんなに速くは歩けないのに無理な行程を組んでしまった例などもあります。ケガをしたり日が暮れてビバークになってしまった際に備えて、ツエルトなどを携行するという考え方は浸透していますが、実際に有効な使い方を習得している人は少ないのではないのでしょうか。また、予備の食糧や水などについてはどうでしょう。最近の酷暑の夏山では、水が足りなくなつての救助要請等も発生しています。事故への備えは、もちろん私たち登山者自身のためではありますが、「いかにして家族や周囲の人たち、遭難救助に当たってくれる方々に余計な心配をかけないか」という観点から考えることが大切です。

久保田 賢次

元『山と溪谷』編集長、ヤマケイ登山総合研究所所長。山と溪谷社在職中は雑誌、書籍、登山教室、登山白書など、さまざまな業務に従事。

筑波大学山岳科学学位プログラム終了。日本山岳救助機構研究主幹、AUTHENTIC JAPAN（ココヘリ）アドバイザー、日本山岳会理事なども務め、各方面で确实登山の啓発や、登山の魅力を伝える活動を行っている。

会社概要

AUTHENTIC JAPAN 株式会社

代表取締役社長：久我 一総

本社：福岡県福岡市中央区赤坂 1-6-15-4F

URL：<https://www.authjapan.com/>

事業内容：山岳検索サービス「ココヘリ」などの展開

「ココヘリ」とは

「ココヘリ」は会員に専用の電波を発信する発信機を貸与し、山岳遭難時に受信機を持った民間提携ヘリコプターを始めドローンや民間地上捜索隊を出動させ、発信機と受信機の「直接通信」を用いて登山者の位置を特定することで、捜索時間を大幅に短縮できるサービスです。

遭難が発生するような山岳地帯ではスマートフォンの電波が届かないことが珍しくありません。ですが、「ココヘリ」は携帯電話の通信網に頼らない「直接通信」なので、山岳地帯での迅速な捜索が可能となります。こうした「命を守る」ことへの高い性能が登山家に強く支持され、会員数は17万人を超えるまでに達しています。

代表取締役 久我 一総の略歴

1978 年、福岡県福岡市生まれ。西南学院大学文学部外国語学科英語専攻卒業。2002 年パナソニックシステムネットワークスに入社し、SCM 部門の責任者としてイギリスの子会社へ出向。10 年後に帰国し、商品企画部門へ異動。2011 年に AUTHENTIC JAPAN を立ち上げ、退職。現在に至る。

■ 本件に関する報道関係者からのお問合せ先

AUTHENTIC JAPAN 株式会社 マーケティング担当

電話：092-791-2595

メールアドレス：info@authjapan.com